

【馬淵川】流域治水の自分事化に向けた取り組み計画 (案)

【フルセット版】

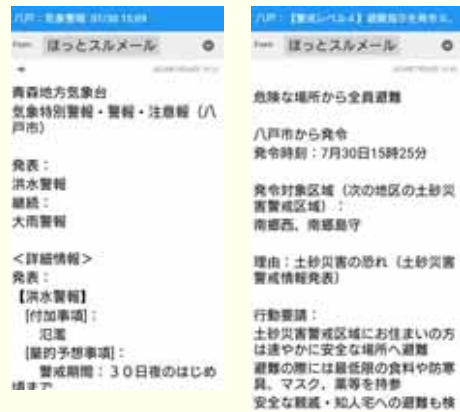
令和7年2月
馬淵川流域治水協議会

馬淵川水系流域治水協議会（八戸市）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

水災害、流域治水の広報

- ほっとスルメールによる気象情報・災害情報・避難情報等の配信



- 市広報誌に風水害の周知・啓発の記事を掲載

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

防災教育・防災訓練

- 住民の防災意識向上のための防災教育や防災訓練の実施



八戸市総合防災訓練

リスク情報等の提供

- 洪水・ため池ハザードマップを作成・配布
- まるとまちごとハザードマップ標識の設置



- 雨水出水浸水想定区域の公表
- 内水ハザードマップの作成・配布
- 立地適正化計画を公表

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

計画策定

- 要配慮者利用施設による避難確保計画作成の支援

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(八戸市)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	ほっとスルメールによる気象情報・災害情報・避難情報等の配信 市広報誌で風水害を周知・啓発			
	◎連携活動 地域 個人				
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	ハザードマップの周知、公表等 立地適正化計画に関する情報の周知、市民等への情報提供			
	◎教育活動 地域 個人	防災教育を随時実施			
	◎訓練活動 地域 個人		総合防災訓練		
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	要配慮者利用施設による避難確保計画作成の支援			
	◎水災害対策の支援 個人	河川改修の推進・実施			
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体				

馬淵川流域治水協議会（三戸町）

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

連携活動

- 県が主催する流域防災研修会や、八戸圏域市町村圏で主催する研修会への参加促進。



- 自主防災会や町内会への防災出前授業（講師は防災士の資格を有する町職員）



流域治水の広報

教育活動

- 防災をテーマにしたワークショップの開催（1回、50人）
- 小中学校への防災教育・HUG避難所運営ゲーム（1回、60人）



リスク情報等の提供

- 浸水想定区域（想定最大規模）等を反映した「三戸町防災マップ」を更新・配布。
災害発生前及び発生時の行動を確認し、防災意識・知識の向上のため、避難場所等に関する情報を周知。



訓練活動

- 災害対策図上訓練を実施（職員・関係機関、1回、60人）



水防活動の支援

- 水防活動拠点整備
ドローン導入
ドローン3基、操縦者5名



- 水防団（消防団）への土のう袋の配布（各分団50袋/年）

○水防団員（消防団員）の募集

年度	団員数（人）	充足率（％）
令和4年度	409	87.0
令和5年度	394	83.8
令和6年度	391	83.2

※各年4月1日現在（条例定数470名）

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(三戸町)

取り組み・主対象	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	広報誌で水害・土砂災害を啓発	自主防災会や町内会への防災出前授業		
	◎連携活動 地域 個人	県主催の流域防災研修会参加を促進		八戸圏域連携中枢都市圏主催の研修会参加を促進	
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、洪水・土砂災害ハザードマップを活用し防災意識・知識の向上			
		避難場所等に関する情報の周知、市民への情報提供、メディア連携			
	◎教育活動 地域 個人	小中学校における防災教育、出前授業	防災ワークショップ		
◎訓練活動 地域 個人	住民参加型の避難訓練	ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進			
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	要配慮者施設等の避難確保計画の見直し促進と避難の実効性確保			
		地区タイムラインの作成・周知			
	◎水災害対策の支援 個人	水防団(消防団)への土のう袋の事前配布			
◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体	水防活動拠点整備		災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化		

馬淵川水系流域治水協議会（五戸町）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

流域治水の広報

- 避難所標識・誘導標識等設置



- 浸水想定区域図、土砂災害警戒区域、ハザードマップを統合した防災マップ



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

教育活動

- 防災マップを活用した研修会等を実施



リスク情報等の提供

- 総合的な防災マップの作成・配布
- 避難場所等に関する情報を周知

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

訓練活動

- 総合防災訓練を実施（年1回）



自主防災組織への支援

- 地域単位での自主防災組織を結成できるように支援



③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

水防活動の支援

- 水防活動資機材の整備



流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(五戸町)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	広報誌等で水害・土砂災害を啓発 ●			
		避難所標識・誘導標識等による避難所・災害注意情報の周知			
	◎連携活動 地域 個人				
		ほっとスルメールによる災害情報の周知			
②自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体				
		浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、洪水・土砂災害ハザードマップ配布等			
		避難場所や経路等に関する情報の周知、住民への情報提供、メディア連携			
	◎教育活動 地域 個人		防災に関する研修会 ●		
	◎訓練活動 地域 個人		総合防災訓練 ●		
		ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進			
③行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体				
		要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保			
	◎水災害対策の支援 個人				
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体				

馬淵川流域治水協議会（田子町）

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

連携活動

○自主防災体験研修会を実施（1回、50人）
自治会及び自主防災会を対象に、防災に係る基礎知識の習得、防災活動の参考となる事項の確認等を目的とし、講師による講演・災害図上訓練DIGを実施。



流域治水の広報

教育活動

リスク情報等の提供

訓練活動

計画策定

水防活動の支援

○住民参加型の避難訓練を実施（1回、220人）



○災害対策本部図上訓練を実施
職員対象（1回、90人）



○浸水想定区域（想定最大規模）等を反映した「田子町防災マップ」を更新・配布。
災害発生前及び発生時の行動を確認し、防災意識・知識の向上のため、避難場所等に関する情報を周知。



○水防活動拠点整備
消防団員ドローン導入
ドローン4基、
操縦者10名



○水防団員（消防団員）の募集

年度	団員数	前年比
令和4年度	236	0
令和5年度	232	4
令和6年度	230	2

※各年4月1日現在（条例定数278名）

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(田子町)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体		広報誌で水害・土砂災害を啓発 ●		
	◎連携活動 地域 個人	総合防災訓練の実施 →			
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、洪水・土砂災害ハザードマップを活用し防災意識・知識の向上 →			
		避難場所等に関する情報の周知、市民への情報提供、メディア連携 →			
	◎教育活動 地域 個人		防災研修会 ●		
	◎訓練活動 地域 個人		住民参加型の避難訓練 ●		
		ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進 →			
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保 →			
		地区タイムラインの周知 →			
	◎水災害対策の支援 個人	水防団へ土のうの事前配布 ●			
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体	水防活動拠点整備 →		災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化 →	

馬淵川水系流域治水協議会（南部町）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

連携活動

- 子育て世代の若い家族を対象として、楽しみながら防災を学び、防災意識を高めるイベント開催（1回、300人）



防災意識啓発活動

- 町民を対象とした防災教室を実施



リスク情報等の提供

- 危機管理型監視カメラを設置
ホームページでライブ配信
（馬淵川2箇所・如来堂川1箇所設置）



訓練活動

- 住民参加型の防災訓練を実施



要配慮者の支援

- 河川の氾濫を想定し、福祉施設から要配慮者の避難と避難所での生活体験を実施



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(南部町)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体		広報誌で水害・土砂災害を啓発 ●		
	◎連携活動 地域 個人		防災イベント開催 ●		
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	危機管理型監視カメラによるライブ配信 →			
	◎教育活動 地域 個人	防災教室 →			
	◎訓練活動 地域 個人		住民参加型の防災訓練 ●		
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体				
	◎水災害対策の支援 個人	食糧、土嚢等の備蓄 →			
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体	町道の嵩上げ整備 →			

馬淵川水系流域治水協議会（新郷村）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

流域治水の広報

- 浸水想定区域図、土砂災害警戒区域、ハザードマップを統合した防災マップ



教育活動

- 中学校への防災教育（1回、37人）



リスク情報等の提供

- 総合的な防災マップの作成・配布
- 避難場所等に関する情報を周知

訓練活動

- 総合防災訓練を実施



自主防災組織への支援

- 自主防災組織合同訓練を実施（1回、30人）



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(新郷村)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	広報誌等で水害・土砂災害を啓発 ●			
	◎連携活動 地域 個人				
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、洪水・土砂災害ハザードマップ配布等 避難場所や経路等に関する情報の周知、住民への情報提供、メディア連携			
	◎教育活動 地域 個人				
	◎訓練活動 地域 個人		総合防災訓練 ●		
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保			
	◎水災害対策の支援 個人				
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体	水防団との情報伝達体制の確認			

馬淵川流域治水協議会（二戸市）

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

連携活動

○メディアとの連携による、防災ラジオ放送、SNS・メール配信を開始(災害情報の受信方法の多様化)



教育活動

○小中学校への防災教育・防災マップを活用した地域団体等への出前講座(令和6年度 5回、約250人)



訓練活動

○市防災訓練において住民参加型の避難訓練を実施(令和4年度 約30人、令和5年度 約80人、令和6年度 約100人)



流域治水の広報

○浸水想定区域図、土砂災害警戒区域を掲載した防災マップ



リスク情報等の提供

○転入者・希望者等への防災マップの配布



計画策定

○避難確保計画の策定支援

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(二戸市)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体		広報誌で水害・土砂災害を啓発 ●		
	◎連携活動 地域 個人	コミュニティFM等と連携した防災ラジオ放送、SNS/メール配信による情報提供の多様化(随時) →			
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	転入者・希望者等への「二戸市防災マップ」の配布、防災ラジオの無償貸与等(随時) →			
		避難場所や経路等に関する情報の周知、市民への情報提供、メディア連携 →			
	◎教育活動 地域 個人	防災マップを活用した自主防災組織・自治会・地域団体等への防災出前講座(随時) →			
	◎訓練活動 地域 個人		市防災訓練等における住民参加型の避難訓練 ●	図上訓練 ●	
		「二戸市防災マップ」の周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進 →			
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と支援、避難の実効性確保 →			
	◎水災害対策の支援 個人		市民への土のうの配布(要望時)		
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体		市防災訓練等における消防団による水防訓練 ●		

馬淵川水系流域治水協議会（八幡平市）

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

教育活動

- 防災マップ等を用いた防災教育・出前講座(4回、79人)
- 自主防災組織化推進説明会等(5回、50人)



水防活動の支援

- 水防団を対象とした水防訓練への参加



訓練活動

- 住民参加型の総合防災訓練
※R6は台風10号の影響により中止
(参考:R5 580人参加)



リスク情報等の提供

- 浸水想定区域、土砂災害計画区域等を公表
- 総合的な防災マップ(洪水・土砂災害ハザードマップ)を更新・配布

計画策定

- 避難確保計画の策定支援

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(八幡平市)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体		広報誌で水害・土砂災害を啓発 ●		
	◎連携活動 地域 個人		自主防災組織リーダーの育成 →		
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	防災マップ(洪水・土砂災害ハザードマップ)の配布等 →			
	◎教育活動 地域 個人		防災講話、研修会 →		
	◎訓練活動 地域 個人		住民参加型の避難訓練 ●	防災マップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進 →	
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体		要配慮者施設等の避難確保計画の策定支援と避難の実効性確保 →		
	◎水災害対策の支援 個人				
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体		水防団との情報伝達体制の確認 →		水防資器材の確認 →

馬淵川流域治水協議会（葛巻町）

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
 （自分のためにも、みんなのためにも）

教育活動

- 小学校を対象とした防災教育（6回、74人）
- 高校生を対象とした防災講話（1回、48人）



訓練活動

- 住民参加型の総合防災訓練・消防団員による水防訓練を実施（対象地区：星野地区、1回、170人）



避難計画の実効性の確保

- 要配慮者利用施設の巡回・指導（保育園、学校、高齢者施設、病院等 17施設）

リスク情報等の提供

- 地域の洪水・土砂災害の危険性、正しい避難方法等について、葛巻町防災マップを用いて情報提供（平船自治会、10人）
- 広報誌により、土砂災害警戒区域等について情報提供（1回）
- 防災カメラにより、道路・河川の状況をリアルタイムで情報配信（町内15箇所）

避難訓練の支援

- 要配慮者利用施設の土砂・洪水災害避難訓練の支援

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(葛巻町)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	広報誌で水害・土砂災害を啓発 ●			
	◎連携活動 地域 個人		小学校の社会科見学等の機会を利用防災施設の役割等を説明 →		
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体		避難場所や経路等に関する情報の周知、町民への情報提供 →		
			防災カメラによる道路・河川等の情報提供 →		
	◎教育活動 地域 学校 個人		各自主防災隊、各団体等への防災講話、研修会 →		
			小中学校における防災教育等 →		
	◎訓練活動 地域 個人	住民参加型の避難訓練 ● ● ●		防災マップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進 →	
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体		要配慮者施設等の避難確保計画に基づく避難の実効性確保 →		
	◎水災害対策の支援 個人				
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体			災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化 →	

馬淵川水系流域治水協議会（軽米町）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

教育活動

○小中学生への防災教育・出前講座
～軽米町の過去の水害から学ぶ～
（令和6年度 2回、約70人）



○地域団体への防災出前講座
（令和6年度 1回、約20人）



リスク情報等の提供

○更新した防災マップの配布
○マップの見方・使用方法の周知（ケーブルテレビを活用）



計画策定

○軽米町地域防災計画の改定

○災害協定の締結（二戸薬剤師会）



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(軽米町)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	小学生対象 防災教育、出前授業 ●	中学生対象 防災教育、出前授業 ●		
	◎連携活動 地域 個人				
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	転入者・希望者等への「軽米町防災マップ」の配布(随時) →			
		防災マップの活用方法について周知 →			
	◎教育活動 地域 個人	防災マップを活用した自主防災組織・自治会・地域団体等への防災出前講座(随時) →			
	◎訓練活動 地域 個人			防災訓練 ●	
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体				
	◎水災害対策の支援 個人				災害備蓄品の補充 →
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体				

馬淵川流域治水協議会（一戸町）

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

教育活動

○小中高校への防災教育・出前講座・
防災訓練への協力
(3回、3校)



○学校職員対象の図上訓練
(1回、1校)



地域防災活性化 推進事業(岩手県事業)

○住民参加型の自主防災組織設立
及び地区防災計画の策定
(2回、のべ20人)



訓練活動

○住民参加型の防災訓練を実施
(4回、562人)



防災行政無線屋 外拡声局更新

○防災無線の屋外
拡声局を無線化・増設



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む
主体が増える

馬淵川流域治水協議会(一戸町)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期			第3四半期			第4四半期		
① 知る機会を増やす	◎教育活動 地域	小中高校における 防災教育、出前授業	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	◎教育活動 地域	防災講話、研修会	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	◎訓練活動 地域 個人 企業・団体	住民や企業参加型の避難訓練	●	●	●	●	●	●			

馬淵川流域治水協議会（青森県農村整備課）

結果報告： 具体的取組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

雨水貯留の実践 (田んぼダムの取組の普及)

○田んぼダムの取組マニュアルや農家向けのパンフレットを作成

雨水貯留の実践 (田んぼダムの取組の推進)

○ほ場整備事業により排水口に田んぼダム用の流出調整板を設置

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(青森県農村整備課)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水田貯留の実践 (田んぼダムの取組の普及) 地域 個人 団体	田んぼダムの取組マニュアル、パンフレットの配布			
② 自分事と捉えることを促す	◎水田貯留の実践 (田んぼダムの取組の普及) 地域 個人 団体	田んぼダムの取組マニュアル、パンフレットの配布			
③ 行動を誘発する	◎水田貯留の実践 (田んぼダムの取組の推進) 地域 個人 団体	ほ場整備事業により田んぼダム用の排水柵等を設置			

馬淵川水系流域治水協議会（青森県林政課）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

治山事業のPR

治山事業

治山事業は、森林法に基づき、保安林の指定目的を達成するために行う森林の造成事業です。

治山事業の役割とは

- 土砂災害に強い森林づくりを進め、安全で快適な暮らしを守る
- 森林の水質浄化機能により豊かな水を育む山づくり
- 海岸からの粉砕物を防止する森林を育む
- 森林と人との共生林づくり

○県庁のHPにて、治山事業の役割や大切さについてPR



治山事業概要図

土砂災害に強い森林づくりを進め、安全で快適な暮らしを守ります

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

リスク情報等の提供

青森県 山地災害危険地区 位置情報の使い方

青森県 森林水産部 林政課

■画面構成について

画面構成は、下記に示すとおりです。それぞれの名称は、以下の解説で説明します。



○青森県山地災害危険地区(民有林)の位置情報等について、インターネット上で公開し地域住民へ周知

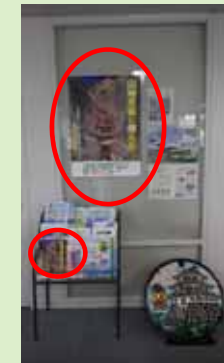
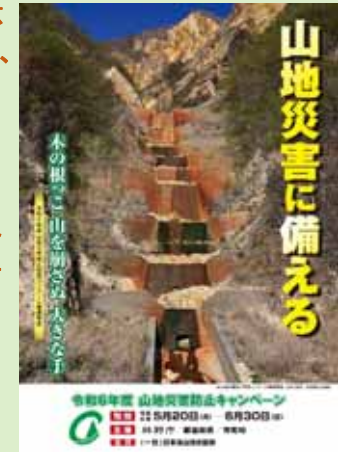
②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

山地災害防止キャンペーンの実施

○住民等に対する意識啓発を図るため、山地災害の防止に関するポスターとパンフレットを各関係機関に送付するとともに、県合同庁舎と各市町村ではロビー等に掲示

・実施期間
R6.5.20～6.30



流域治水に取り組む主体が増える

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みがられるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

馬淵川流域治水協議会(青森県林政課)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎治山事業のPR 地域 個人 企業・団体	県庁のHPにて、治山事業の役割や大切さについてPR			
	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	青森県山地災害危険地区(民有林)の位置情報等について、インターネット上で公開し地域住民へ周知			
	◎山地災害防止キャンペーンの実施 地域 個人 企業・団体	住民等に対する意識啓発を図るため、山地災害の防止に関するポスターとパンフレットを各関係機関に送付するとともに、県合同庁舎と各市町村ではロビー等に掲示			
② 自分事と捉えることを促す					
③ 行動を誘発する					

馬淵川水系流域治水協議会（青森県河川砂防課）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

流域治水の広報

- 流域治水を推進することを目的としたイベントの開催



流域治水シンポジウム(土砂災害防止講演会)



あおり流域治水キャンペーンinサンロード青森

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

リスク情報等の提供

- 浸水想定区域、土砂災害が発生するおそれのある箇所公表



洪水浸水想定区域図



土砂災害が発生するおそれのある箇所図

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

水災害対策の支援

- 河川改修



馬淵川改修事業

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(青森県河川砂防課)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	流域治水を広報するイベントの実施			
	◎連携活動 地域 個人				
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	浸水想定区域、土砂災害が発生するおそれのある箇所の公表			
	◎教育活動 地域 個人	川の防災安全教室、出前講座の実施			
	◎訓練活動 地域 個人				
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体				
	◎水災害対策の支援 個人	河川改修の実施			
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体				

馬淵川水系流域治水協議会（青森県危機管理局）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

広報活動

○避難情報の運用に関するポスターの掲示及びマイ・タイムラインの周知



○あおりおまもり手帳を活用した普及啓発



出前講座

○住民や企業を対象として、防災に関する知識の普及を実施



教育活動

○分かりやすい教材等を用いた小・中学生への防災教育



研修会開催

○自主防災組織の設立を促進するため、住民向けの啓発・支援を実施



訓練活動

○市町村における風水害対策図上訓練の企画実施を支援



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(青森県危機管理局)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎広報活動 地域 個人 企業・団体	避難情報の運用に関するポスターの掲示及びマイ・タイムラインの周知			
		あおりおまもり手帳を活用した普及啓発			
② 自分事と捉えることを促す	◎出前講座 地域 個人 企業・団体	住民や企業を対象として、防災に関する知識の普及を実施			
	◎教育活動 地域 個人	分かりやすい教材等を用いた小・中学生への防災教育			
③ 行動を誘発する	◎研修会開催 地域 個人 企業・団体	自主防災組織の設立を促進するため、住民向けの啓発・支援を実施			
	◎訓練活動 地域 個人 企業・団体	市町村における災害対策図上訓練の企画実施を支援			

馬淵川水系流域治水協議会（岩手県）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

連携活動

- マスメディアやSNSを活用し、大雨・洪水への備えに関する啓発活動を実施（FMIいわて：R6.6月実施）（岩手日報：R6.7月実施）（NHK地上デジタルデータ放送：R6.8月実施）



- 市町村と連携し、防災士の資格取得のための研修会を実施（R6.10月実施）

流域治水の広報

- 流域治水のパネル展や土砂災害パネル展を実施（二戸地区合同庁舎：R6.7.12～26）



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

訓練活動

○市町村と連携した水防訓練の実施

- 气象台等と連携し、災害への初動対応や図上訓練等に係る研修を実施（防災気象情報の活用、災害情報システムの操作等）
- 実施自治体
二戸市、一戸町、葛巻町



教育活動

- 自主防災組織等に対する地域防災サポーターの派遣
- 土砂災害等に関する出前講座の実施（一戸町：R6.9月実施）



リスク情報等の提供

- 浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表や住民説明会等の実施
- 危機管理型水位計・監視カメラの継続運用
- 緊急速報メールやLINE等を活用して県民へ情報提供
- メディアと連携による洪水・土砂災害情報の提供

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

水防活動の支援

- 災害時の応援協定（R6.8月大雨関連対応等）

計画策定

- 要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保
- マイタイムラインの普及啓発

洪水浸水想定区域指定4ヶ年計画

	全体計画	うち馬淵川流域
R4	7河川（新規指定） 23河川（見直し）	0河川（新規指定） 2河川（見直し）
R5	70河川（新規指定） 2河川（見直し）	11河川（新規指定） 0河川（見直し）
R6	85河川（新規指定） 4河川（見直し）	0河川（新規指定） 0河川（見直し）
R7	81河川（新規指定） 1河川（見直し）	11河川（新規指定） 0河川（見直し）
合計	243河川（新規指定） 30河川（見直し）	22河川（新規指定） 2河川（見直し）

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(岩手県)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	● ●	●	流域治水や土砂災害のパネル展を実施	
	◎連携活動 地域 個人	市町村と連携し、防災士の資格取得のための研修会を実施			
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、住民説明会等の実施			
		緊急速報メール・LINE等による県民への情報提供、メディア連携による洪水・土砂災害情報の提供			
		危機管理型水位計・監視カメラの継続運用			
	◎教育活動 地域 個人	自主防災組織等に対する地域防災サポーターの派遣			
		土砂災害等に関する出前講座の実施			
③ 行動を誘発する	◎訓練活動 地域 個人	●	気象台等と連携し、災害への初動対応や頭上訓練等に係る研修を実施		
		市町村と連携した水防訓練の実施			
	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保			
		マイタイムラインの普及啓発			
	◎水災害対策の支援 個人				
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体	災害時の応援協定			

馬淵川水系流域治水協議会（東北農政局北奥羽土地改良調査管理事務所）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

水災害の広報



○農林水産省HPに災害に関する情報を公開

リスク情報等の提供



○農林水産省HPに災害等に備えた予防減災に関する情報を公開



○「自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版BCP」についてパンフレット・チラシを農林水産省HPに公開

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(東北農政局北奥羽土地改良調査管理事務所)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	災害に関する情報を農林水産省HPで公開			
	◎連携活動 地域 個人				
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	災害等に備えた予防減災に関する情報を農林水産省HPで公開			
	◎教育活動 地域 個人				
	◎訓練活動 地域 個人				
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版BCPを農林水産省HPで公開			
	◎水災害対策の支援 個人				
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体				

馬淵川水系流域治水協議会（三八上北森林管理署）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

国有林野事業の広報

○森林整備や治山事業の取組概要をホームページ上で発信



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

教育活動

○森林の役割や大切さ等の理解を深めるため、地元小学生を対象に森林教室や体験学習を実施（R6:4回、15名）



②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

森林づくりへの住民参加

○市民・学生・地域の企業等が協定に基づき国有林内で森林づくり活動を実施（R6:2回、118名）

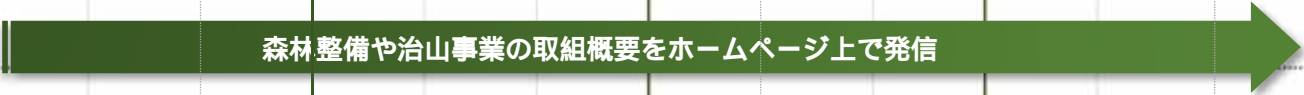




③行動を誘発する

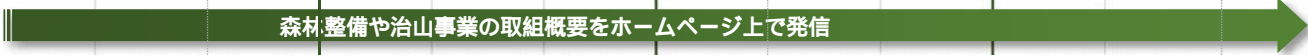








水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(三八上北森林管理署)

取り組み・主対象	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
<p>① 知る機会を増やす</p> <p>◎国有林野事業の広報</p>	<p>森林整備や治山事業の取組概要をホームページ上で発信</p> 			
<p>② 自分事と捉えることを促す</p> <p>◎教育活動</p>	<p>小学生を対象とした森林教室・林業体験学習</p> 			
<p>③ 行動を誘発する</p> <p>◎森林づくりへの住民参加</p>	<p>協定者による植樹活動を実施</p> 			

馬淵川流域治水協議会(岩手北部森林管理署)

取り組み・主対象	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす ◎国有林野事業の広報	森林整備や治山事業の取組概要をホームページ上で発信 			
② 自分事と捉えることを促す ◎教育活動	 	    		
	小学生を対象とした森林教室・林業体験学習等			
③ 行動を誘発する ◎森林づくりへの住民参加				
	協定者による植樹活動を実施			

馬淵川水系流域治水協議会（森林整備センター）

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

水源林造成事業の広報

○森林整備の取組概要をホームページや広報誌で発信



森林所有者等との会議

○所有する森林が、災害を防止するために重要な機能を持っていることを知り、公益的機能をさらに発揮させたいと考えるきっかけとする。（R6年度約30名）



育成複層林や長伐期化を推進

○森林所有者等と協力して、馬淵川流域上流部の民有林において、育成複層林を造成（R6年度10ha、R7年度5ha予定）



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会（森林整備センター）

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水源林造成事業の広報	ホームページで発信			
		●	●	●	●
				森林整備センター広報誌 季刊水源林の発行	
② 自分事と捉えることを促す	◎造林地所有者等との協議	●		●	
		造林事業打合せ会議		分収造林契約に基づく主伐協議	
③ 行動を誘発する	◎育成複層林や長伐期化を推進	●		●	
		育成複層林（下木）の植栽		育成複層林（上木）の伐採	

馬淵川水系流域治水協議会（青森地方気象台）

結果報告： 具体的取組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

教育活動

○県、市町村、河川事務所等の
防災担当者向けに、大雨に
関する防災気象情報等のWeb
講座を実施。



リスク情報等の提供

○キキクルにより浸水、土
砂、



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む
主体が増える

馬淵川流域治水協議会(青森地方気象台)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体				
	◎連携活動 地域 個人				
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	キキクルにより浸水、土砂、洪水の危険度を提供 			
	◎教育活動 地域		◎県、市町村、河川事務所等の防災担当者向けに、大雨に関する防災気象情報等のWeb講座を実施。 		
	◎訓練活動 地域 個人				
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体				
	◎水災害対策の支援 個人				
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体				

馬淵川水系流域治水協議会（青森河川国道事務所）

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

連携活動

- 重要水防箇所合同巡視の実施 (R6実績 馬淵川:34人)



重要水防箇所合同巡視

教育活動

- 出前講座等の実施
- 小学生の体験学習として、水生生物調査、河川の学習会を実施



一日河川パトロール

訓練活動

- 洪水対応演習
- 水防工法訓練



洪水対応演習

水防活動の支援

- 排水ポンプ車派遣



排水ポンプ車

流域治水の広報

- 流域治水の取り組み推進のための広報や関係機関調整
- SNSを使用した防災情報の共有

計画策定

- 河川整備基本方針の変更を検討
- 河川整備計画変更(R6.1月)



馬淵川水系河川整備計画 (大臣管理区間) 位置図

水災害対策の支援

- 河道掘削・堤防整備
- 道路高台等への避難場所の整備・確保



道路高台への避難階段

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

馬淵川流域治水協議会(青森河川国道事務所)

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	流域治水の取り組み推進のための広報や関係機関調整			
	◎連携活動 地域 個人	重要水防箇所合同巡視 (馬淵川)			
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体				
	◎教育活動 地域 個人	環境・防災学習支援			
	◎訓練活動 地域 個人	洪水対応演習 水防工法訓練			
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	馬淵川水系河川整備基本方針変更の検討 馬淵川水系河川整備計画フォローアップ			
	◎水災害対策の支援 個人			河道掘削・堤防整備の推進	
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体	水防活動支援(排水ポンプ車派遣等)			